

時空をこえて

と き 貴重書の世界

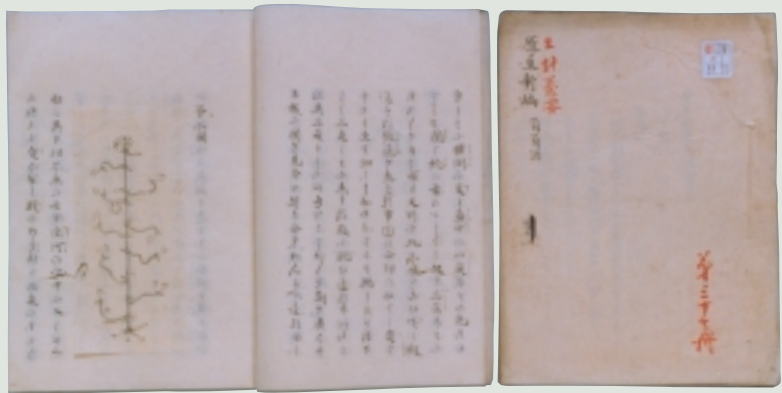
生計纂要(せいけいさんよう)

『生計纂要』はその内容もさることながら、来歴が興味深い。完成稿である『厚生新編』が官庫の秘書とされたのに、初稿であるこちらは、改題され藩校で活用されたという。

そもそも『厚生新編』とは、馬場佐十郎・大槻玄沢・宇田川玄真など洋学者が、江戸幕府の命を受け、ショメールの日用百科を翻訳し編み上げた百科事典のことである。翻訳の際底本としたのは、仏語でかかれたショメー



ショメールの日用百科事典(蘭訳版)1743年



『厚生新編』という外題が消されているものが23冊ある

ルの原著を、さらに蘭訳した版であったという。その内容(天文学・理化学・鉱物・産業技芸があり、特に植物・動物・医療・薬品は項目が多い)と分量(135冊以上、分冊で200冊余)から明治時代以前における最大の翻訳とされた。また蘭学が幕府公認の官学になるはじめとなったが、刊行されることはなかった。その初稿が何故宮城県図書館に所蔵されているのかというと、訳者の一人である大槻玄沢が、密かに仙台藩の藩庫に納入していたからである。『生計纂要』は全87冊と「生計纂要訳説順次目録」1冊からなる。当時の最新の科学知識である葡萄酒・銅版画・洋紙の製法、エレキテルなどが紹介されており、現在でも用いられている訳語(アラビアゴム、ドロップなど)が多く含まれている点も面白い。

わたしのこの一冊

My Favorite Book

『おっばい おっばい』

わかやまけん / さく 童心社 1983年

「赤ちゃんの一番好きなもの」

小牛田町読み聞かせボランティア「本のかけはし」代表 萱場 節子

町の図書館で絵本の読み聞かせをしているおかげで、私はこれまで沢山の素敵な絵本に出会ってきました。そのなかでもこの絵本は、山形に嫁いだ娘の出産祝いに戴いた一冊で、やさしい線とシンプルな色使いでいるんな動物の親子が描か

れています。特に私の好きな場面は、ぶたの親子のおっぱいタイムの絵で、でっぴり母さんと子ぶたたちの様子がなんとほほえましいものです。

数年前、ママのお出かけ中に徐々に8ヶ月になる孫の子守をすることになりました。早速、読み聞かせをと手にしたのが、「おっばい おっばい」の絵本でした。母乳育ちのおっばい大好き赤ちゃんでしたから、うっかり「おっばい」と読んでしまったら、ママを思い出すのではと、あわててそれを隠したことがありました。

秋に産まれた二人目の孫は、ママのおっばいと「おっばい おっばい」の絵本を、しっかりとバトンタッチされたことでしょう。心身ともに健やかに育ってほしいと願うばかりです。

* 「本のかけはし」は、2002年優良読書グループとして社団法人・読書推進運動協議会より表彰を受けました

図書館からのお知らせ

本館所蔵資料の文化財指定について

本館所蔵貴重書が平成15年1月31日に、宮城県指定有形文化財(書籍)の指定を受けました。指定された資料は次のとおりです。

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 『禽譜』(11帖3巻)『観文禽譜』(12冊) | 6 『生計纂要』(88冊) |
| (近世最高・最大の鳥類図鑑) | (江戸幕府の秘本『厚生新編』の草稿) |
| 2 『魚譜』(7巻) | 7 『三航蝦夷日誌』(35冊) |
| (近世の科学的で美しい魚類図鑑) | (蝦夷地、樺太、国後などの19世紀半ばの探検記録) |
| 3 『開算四傳書』(474冊) | 8 『北海道風土記』ほか(35冊附図12冊) |
| (我が国和算史上屈指の資料) | (北海道と北方領土に関する地誌) |
| 4 『貞観政要』(8冊) | 9 『言海』(32冊) |
| (官版刊行の先駆けとなった本) | (日本最初の近代国語辞典) |
| 5 『光悦謡本一百番』(99冊) | |
| (古印刷史上最も美しいといわれる「嵯峨本」) | |

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル「ことばのうみ」は、本館第8代館長・大槻文彦編者による日本最初の近代的国語辞典『言海(げんかい)』(1889~1891年刊行)に由来する。

第13号 2003年3月発行

編集・発行 宮城県図書館

〒981-3205 仙台市泉区紫山一丁目1番地1

TEL 022-377-8441 (代表) FAX 022-377-8484

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/library/>

デザイン/印刷 株式会社共同印刷



表紙エッセイ/恩田 陸さん

おんだ・りく。作家。1964年宮城県生まれ。東京都在住。早稲田大学教育学部卒業。1991年第3回日本ファンタジーノベル大賞の最終候補となった『六番目の小夜子』でデビュー。近刊に、『ねじの回転』『蛇行する川のほとり』などがある。